

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さぼーとハウス（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R8年3月5日		～ R8年3月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9件	(回答者数) 8件
○従業者評価実施期間	R8年3月5日		～ R8年3月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8件	(回答者数) 8件
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月23日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設内プールや入浴設備、屋外遊具など、利用児にあった設備が充実している。床暖などの設備も充実している。	医療的ケア児や重度心身障がい児への受け入れの強化を行っている。 学校が終わってからの、時間をゆっくりと過ごせる環境をつくっている。 車いすで過ごしている利用児に対して、出来るだけ座ったり、横になったり出来る環境を作っている。	みんなでできる活動などをさらに考え、1人1人を大事に支援していきたい。
2	異年齢交流ができています。	現在1歳～16歳までの利用児がいる。お世話をしたり、逆にされたりしている。トラブルも起きることもあるが、仲介や見守りを行いながら支援を行っている。	集団で行えることをもっと増やしていく。子どもたちの特性に応じながらも、みんなが楽しく過ごせる環境を作っていく。
3	専門的な支援が行える。	専門的支援計画を個別で考え、しっかりと実施が出来るようにしている。専門的職員との関わりもできている。	平等に訓練が受けれるように、週の計画などをしっかりと行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全体で1つの遊びをすることが難しい。	バギーに乗っている子や、まだ歩けない子までいるため、利用児みんなが楽しい遊びを提供することがむずかしいことがある。	集団としての活動ができない場合がある時には、個別対応したり、置いてけぼりにならないような支援体制をさらに作っていく。 個別での遊びも大事にしながらも、全体が同じ活動を楽しみ無ことでルールの理解などにもつなげていきたい。 部屋の有効的な使い方を考えたり、環境の調整をおこなって
2	外出やイベント参加への難しさ。	1人1人の安全面を考慮した際に、さまざまな特性のある利用児の外出が難しい。	時間帯を分けた外出支援の仕方の検討
3	職員の異動が多い。	法人が大きいため、移動が必須である。	業務のマニュアルなどの作成を行い、だれでもわかるものをつくっていく。